

牧川っ子

～どの子も大切に どの人も大切に 自分も大切に～

牧川小HP
QRコード

ありがとおはよう こんにちは さようなら運動

校長 内田 彦次

10月28日(月)から一週間、「あおこさ運動」を行いました。これは学校運営協議会での提案・決定を受けて学校運営協議会が中心になって実施した運動です。

振り返りますと、令和元年、文部科学省の方針を受けて、市内小中学校において学校運営協議会の導入を進めるという稲沢市のスタンスが示されました。学校運営協議会は、コミュニティ・スクールと呼ばれることもあります。文部科学省のHPでは、学校運営協議会について次のように説明されています。

「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる『地域とともにある学校』への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。」

今井前校長と当時教頭の私の間では「熟議が大切」という認識を共有していました。令和3年度から本格的に学校運営協議会を開き、子どもや学校の様子を理解していただくことを積み重ねました。そして、次第に熟議が可能になってきたと感じました。

昨年度の学校運営協議会で、前会長さんからは「せっかく委員が集まっているのだから、話し合う時間を増やして意見交換を充実させたい。子どもたちのために何かできることはないですか。」というお言葉をいただきました。

本年度、これまでも具体的な提案をいただいていた現会長さんから「子どもたちのために何かやりたい。課題を1つ言ってほしい。」というお言葉を受け、「あいさつです。」と即答しました(一貫して委員会の話題になってきたことです)。推進員さんからは「感謝の気持ちを大切にしてほしい。」というご意見もいただき耳に残る言葉がよいという意見から「あおこさ」という言葉が選ばれました。こうした経緯から「あおこさ運動」を実施することになりました。

あおこさ運動の様子



運動期間中に、地域の方々、PTAの皆様を中心にして、子どもたちに愛情のこもった言葉やあいさつを送っていただきました。ありがとうございました。

子どもたちの幸せを思って活動していただいた方々のお陰で、『心を開いて相手を受け入れ、心を開いて相手に近づく』そうした意味と力をもつ「あいさつ」が、子どもたちの胸に大きく強く広がりました。子ども一人ひとりの意識が高まり成長する様子が見られ、大変有り難く思いました。子どもたちには、愛情をもって接していただける地域の方々が見えることを忘れてほしいと願います。

11月6日(水)、朝礼で「あおこさ表彰」を行いました。高い意識をもって運動に取り組んで振り返りシートで高得点だった児童へ表彰状、運動に協力して活動した生活広報委員会の児童へ学校運営協議会と牧川小学校から感謝状を送りました。今後もあいさつでよりよい交友関係を築いたり、周囲や地域の方々とのご縁をいただいたりできる子どもたちの姿を期待します。